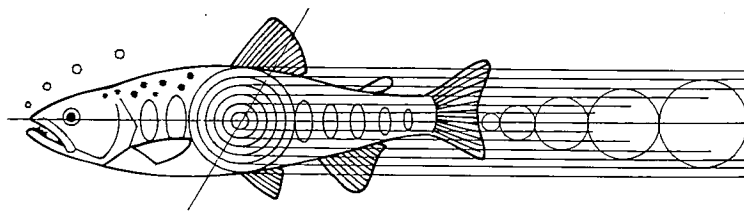
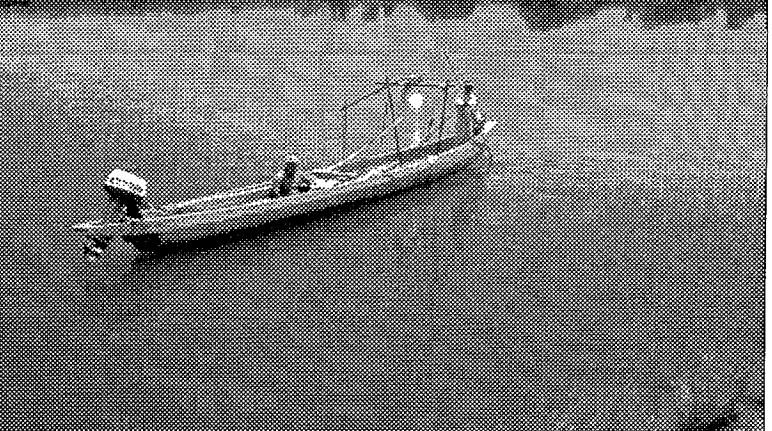
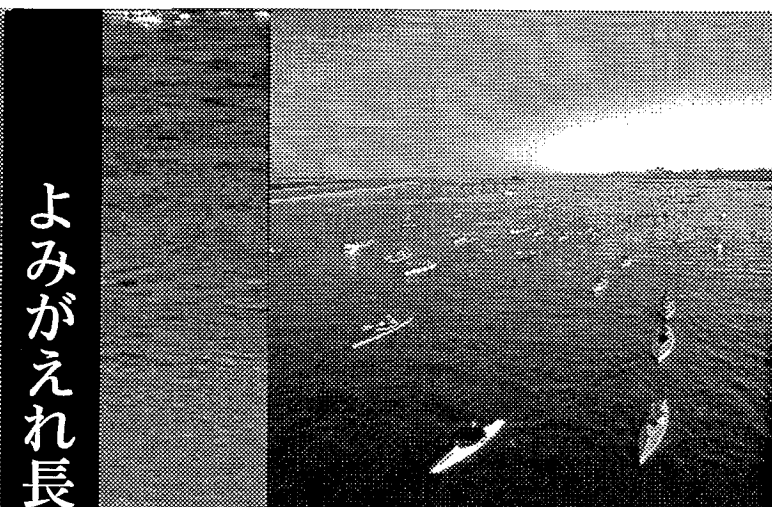
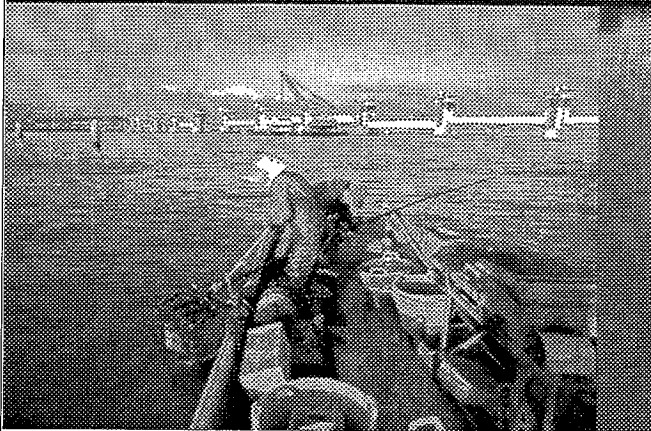
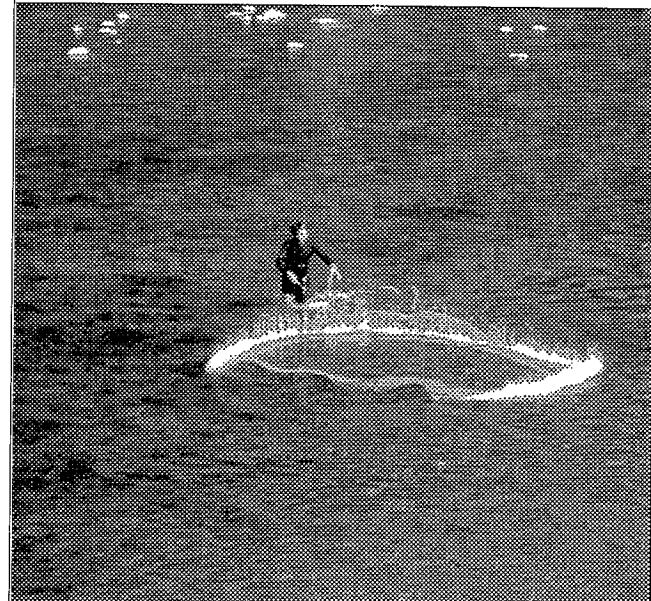


news

長良川市民学習会ニュース



よみがえれ長良川。



No.12

2011年11月21日

表紙・目次(写真撮影/磯貝政司)……………P.1
情勢・活動報告……………P.2~3
愛知県の長良川河口堰検証委員会について
……………P.4~10

目で見てわかる河口堰問題現地報告……P.6~7
内ヶ谷ダムについて……………P.11
校歌に歌われた長良川、事務局より……P.12
(表紙の写真は河口堰完成以前に撮影されたものです。)

情勢と活動報告

NEWS11号発行(5月23日)以降の長良川をめぐる情勢と私たち長良川市民学習会の活動を報告します。

内ヶ谷ダムの検証 岐阜県は私たちが繰り返し要請した「公開討論」に応えることなく「ダムありき」の姿勢を貫いて、「事業継続」という上塗りの結論で終わらせました。P11「岐阜県、内ヶ谷ダム事業「継続」を国交省に報告」をご覧ください。



木曾川水系連絡導水路 国交省と水資源機構が主体となり関係自治体の代表がメンバーとなる「検討の場」がもたれています。もともと、

導水路建設推進もしくは是とするメンバーの検討会ですから結論は見えています。ただ今年2月の愛知県知事・名古屋市長ダブル選挙で当選した両候補が、「導水路事業の見直し」を共同マニフェストに掲げていましたので、両当局の発言を注目しました。席上、愛知県は「知事のマニフェストと関係なく、県の認識・姿勢は変わらない」、名古屋市は「導水路事業について立ち止まって検討するが、水の必要性についてはこれまでどおりの認識」と態度表明。結局、両首長の「導水路見直し」の公約は店晒しとなっています。

長良川河口堰 については、この間大きな前進がありました。昨年来、急速に盛り上がる「開門」世論と COP10 開催・愛知ターゲットの採択を背景に、大村愛知県知事は6月8日、長良川河口堰検証プロジェクトチーム(P T)を開設しました。

この第1回P Tのヒヤリングには当会副代表の富樫幸一先生が招請され、木曾川水系の水儒給の現状と予測から「河口堰の水は要らない」ことを説明されました。これは、国交省を激怒させるものとなり以後の論争を白熱化させました(P9参照)。

P Tは、そのもとに専門委員会を設置。委員に当会代表の粕谷志郎先生が就任。共同座長には当会が内ヶ谷ダム問題でお世話になっている今本博健先生が就任されました。また山内克典先生が専門委員会のリソースパーソンとして招請されヨシ原の消滅など環境悪化の状況を報告。8月3日朝日新聞が「環境をめぐる対決」、中日新聞が「専門家論戦」等と環境をめぐる激しい論争を報道しました。専門委員会の報告書発表までの状況については、P4「愛知県の長良川河口堰検証専門委員会、「開門」の報告書を採択」をご覧ください。

私たちの活動

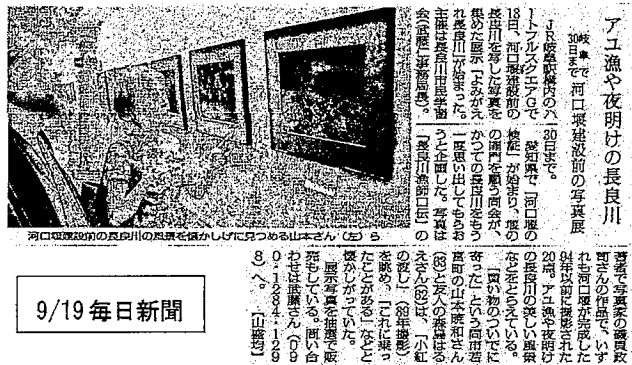
私たちは、賛否双方の立場の学者が出席し公開で進められるこの検証に大きな期待を寄せ、毎回、傍聴・発言を行い積極的に参加しました。また、委員会の外でも市民世論を喚起する様々な取り組みを展開しました。

検証の原点である「現場」を観察する取り組みとして、6月25日に「長良川河口堰環境観察会」を開催しました。多くの報道陣が参加し、22名の観察者が船に乗ってヘドロ、ヨシ原の状況を観察する様子がマスコミに流れました。



検証の議論が「開門」に及ぶ中、私たちは9月5日現場を見る学習会「長良川河口堰開門は可能か？」を開催し、農業用水、工業用水、上水道の取水・導水施設の現場を見学。管理している皆さんのお話も聞いて実態を学習しました（P6、7参照）。参加された市民からは、「こんな仕組みで水が使われているとは知らなかった。」「塩害のウソ、現場を見て納得。」「水余りの実態が理解できた。」などの感想が寄せられました。

検証は、データと理論をもとに議論が進みました。私たちは、市民にもっと身近に「長良川の魅力」を実感してもらうことも大切だと考え、河口堰が建設される以前の長良川の姿を振り返る「写真展」を企画しました。『長良川漁師口伝』の著者である写真家磯貝政司さんの作品をお借りして、JR岐阜駅ハートフルスクエアGにおいて（9/18～9/30）写真展「よみがえれ長良川」を開催しました。長良川の河口から水源まで遡るように、20点の作品を壁面に展示しました。施設や駅を利用する通りすがりの一般市民に鑑賞していただくことができました。美しい長良川の姿から自分の原体験を語り合う市民の姿が多く見られました。



専門委員会が報告書案を発表。9月24日～10月23日の期間、パブリックコメントが実施されることになりました。そこで私たちは、早速10月17日岐阜市において専門委員会の「報告書案説明会」を開催しました。説明は、小島、今本両共同座長にして頂くことができました。会場はほぼ満員、関心の高さが分かります。多くのマスコミの取材があり、NHKなどが放映しました。（P5参照）。

11月7日専門委員会の報告書が発表されました。途中2名の委員の辞表など波乱はありましたが、すべて公開の中で議論と集約過程が明らかにされ、画期的なものでした。

今後、検証はPTの論議、知事の判断そして関係自治体・機関との協議に進みますが、「開門に向けた道」の前途は多難です。市民サイドのさらなるバックアップが求められます。

今、私たち長良川にかかわる市民団体とCOP10を地域で支えた市民団体の呼び掛けでシンポジウム「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」を12月10日名古屋市伏見ライフプラザ鯉城ホールにおいて計画しています。この大規模なシンポジウムの成功で、河口堰開門の流れを大きくしたいと考えています。皆様の一層のご支援をお願いいたします。

愛知県の長良川河口堰検証 専門委員会、「開門」の報告書を採択

11月7日、愛知県の「長良川河口堰検証」の専門委員会は、長期の開門調査を実施すべきとする報告書を採択しました。上部機関であるプロジェクトチームの審議を経て、年内にも正式に大村秀章・愛知県知事に報告される運びです。

昨年、愛知・名古屋で生物多様性COP10が開催され、多くの市民も参加して成功をおさめました。生物多様性への社会的関心の高まりを背景に、大村秀章氏と河村たかし氏は、今年初めの知事選・市長選のダブル選挙の共同マニフェストに「長良川河口堰の開門調査」を掲げました。

このマニフェストの実現のために、6月に、5人の有識者からなる長良川河口堰検証プロジェクトチームが設置され、7月にはその下に専門委員会が設置されました。長良川河口堰の是非を巡る両方（事業者も含む）の立場のリソースパーソンが招かれ、多様な意見が出されました。

各会議は、完全に公開され（ユーストリームで録画も公開）、傍聴者発言の機会も保障されました。従来の行政設置の委員会の多くは「事務局」のお役人が下書きから修正まで行い、委員はコメントするだけですが、これでは行政の描いたシナリオになってしまいます。この長良川河口堰検証プロジェクトチーム及び専門委員会では、委員が自らすべての文章を書いています。「シナリオありき」ではない、ガチンコの議論が行われました。専門委員会は、「3日間連続」「午前・午後ぶっ通し」を含めて11回を重ねました。報告書の最終版は、報告書「案」の段階で募集したパブリックコメントを真摯に受けとめて、最大限に反映させています。委員は専門家として主体的に関わり責任をもつ一方、会議を公開し外部からの意見にもきちんと耳を傾ける、という非常にオープンな質の高い委員会でした。

この報告書は、長良川河口堰を巡る従来の行政の対応に批判的な視点をもつものであり、河口堰運用のあり方の変更を求めるものとなっています。それだけに、この報告書への「風当たり」には激しいものがあると予想されます。

長良川河口堰開門を実現するには多くのハードルを越えねばなりません。さらに大きな声を上げていきましょう。

(文責：近藤ゆり子)

11・11・08 毎日新聞

長良川河口堰「開門を」

専門委提言 愛知県知事、是非判断へ

三重県桑名市にある長良川河口堰について、田中知事は調査の有識者でつくる愛知県の専門委員会が5日、開門調査を5年以上実施するよう同県に求める報告書を決定した。開門調査は、大村秀章知事と河村たかし名古屋市長の共同マニフェスト。報告書は「堰建設で

環境変化や偏熱、シミなどの減少と河口堰の面には因果関係が認められる。水道水、工業用水の代替水源は既存水源や農業用水で対応できる。環境の回復には開門が必要。季節ごとの変化や生物の生活場を観察するため、5年以上の開門調査を行うべきだ。

対し、堰から取水している長良導水水源への切り替えや水需要・供給計画の再検討を、率先して行うよう求めている。【加藤誠】

長良川河口堰 長良川河口から約5・4キロ上流の三重県桑名市にある全長601メートルの国内最大級の可動式堰。堰水面上をじょうけい防止しゅんせつによる治水▽愛知、三重両県と名古屋市の利水開発▽を目的に、水資源機構(旧水資源開発公団)が建設し、95年7月に本格運用。堰建設で利用できるようになった開放水量は毎秒22・5立方メートル(約19億リットル)が利用されている。総事業費1400億円は、国と愛知県、名古屋市長が負担。

専門委員会報告書案説明会

河口堰検証専門委員会報告書案のパブリックコメントに際し、長良川市民学習会が河口堰に強い関心を持つ岐阜県での「説明会」の開催を愛知県に求めたところ、専門委員を説明者として派遣するとの回答がありました。早速 10 月 17 日岐阜市において長良川市民学習会の主催で開催することとなりました。宣伝期間 1 週間足らずの緊急の開催でしたが、85 名の市民が参加。関心の高さが分かりました。説明会は、小島、今本両共同座長にして頂くことができました。当日多くのマスコミの取材があり、早速、NHKの放映がありました。

参加者アンケートに寄せられた意見です。

<現在進められている「長良川河口堰の検証」についてどう思われますか。>

- ・ 検証の発端が流域の大部分を占める岐阜県ではなく、COPIOを主催した愛知県や名古屋市であることが岐阜県民として情けないと思う。岐阜県がもっと率先して調査、議論すべき。海づくり大会が形だけの一過性のイベントで終わらないためにも。
- ・ 実態を徹底討論して欲しい。今後の施策のためにも。・ 正当性（生物多様性）の訴えが弱い。
- ・ 河口堰はいらない。まず開門調査し、その後は是非廃止して欲しい。
- ・ 名古屋市愛知県が勝手に検証して、協同者の岐阜県、三重県との調整もしてなくて実現性のない検証にならないか危惧します。
- ・ 環境を守るうえで大切。一里塚になるか。
- ・ この検証が開門につながりますよう。
- ・ 最低でも河口堰開放、できれば撤去。環境復元を目指してぜひ継続していただきたい。私も長良川流域で育った者の一人として微力ながら協力したい。
- ・ 開門、そして将来的には撤去に向けて、いい時代の流れになることを期待したい。
- ・ 私たち人間を含めた生物の多様性の維持、持続可能な未来のために行動しなければと思います。
- ・ 原発と同じで、自然に還すためには今決断する時だと思えます。

<河口堰問題についてお考えがありましたらお聞かせください。>

- ・ あきらめかけていたが明かりが見えてきたように感じます。
- ・ 長良川河口堰が自然に与えた影響は甚大。利水、治水についても問題ばかり。どうしてこんなものを作ってしまったのか不思議に思う。
- ・ 自然の長良川に戻すべき。企業や一部の人の利害だけでなく、全生物を重視してほしい。
- ・ 若い人にも関心を持っていただきたいと思えます。そして老人も昔のことと言わず、もっと発言して下さるよう願っています。
- ・ 地球環境とか、エコとかいっている割に、大切な役割をしている干潟や汽水域を大切にしないのはおかしい。
- ・ 岐阜県民としては開門して問題が生じるものは全て名古屋市、愛知県が負担すると公言してほしい。他人の財産まで使用して、問題解決を図らず進めるならやめて欲しい。
- ・ (開門したら)揖斐川と長良川の中堤はどうなるでしょうか。水位は？越流？
- ・ 堰建設以前の塩害の資料がないのはおかしい。輪中地域の農業は何時から行なわれていたのか。以前は塩害問題はなかったのか。

2011.10/19 岐阜新聞

長良川河口堰(せき)の三重県愛知両市の開門調査の是非をめぐり、長良川中流域の岐阜市で説明会を開き、長期的開門調査が必要とする報告書案の内容を解説した。

市民団体の長良川市小島さんは水利権に

「長期の開門調査必要」
愛知県 岐阜市で市民説明会

長良川河口堰(せき)の三重県愛知両市の開門調査の是非をめぐり、長良川中流域の岐阜市で説明会を開き、長期的開門調査が必要とする報告書案の内容を解説した。

市民団体の長良川市小島さんは水利権に



愛知県の長良川河口堰検証専門委員会がまとめた報告書案について解説した説明会。岐阜市橋本町、ハートフルスクエアG。

と主張し、()の署名が()もあるが、メリットの開ける()の懸念()大きく()勘案し、より良い未来のために知恵を出していきたくて話した。参加者からは環境回復に向けて開門調査を強く望む声、農業用水の実態調査を求める意見などが上がった。(西山歩)

長良川河口堰 画期的専門委員会（愛知県）を終えて

長良川市民学習会 代表 粕谷志郎

「長良川河口堰の開門調査」をマニフェストに掲げ、大村秀章愛知県知事が誕生したのが今年2月でした。その後、長良川河口堰検証プロジェクトチーム、その下に専門委員会が設置され、検証が始まりました。私も、専門委員の一員に加えていただき議論に参加しました。行政機関が、史上初めて、長良川河口堰の検証に乗り出した画期的な出来事でした。河口堰運用継続を前提にした「検証」はいくらかもありましたが、当然ながら、環境への影響を示すデータを多々示しながらも、「環境への影響は軽微であった。」と、判で押したような結論が導かれてきました。長良川が、行政の思惑をぬきに、きちんと取り上げられて議論されたのも委員会の最大の特徴でした。利水に関する検証も、中立になされたのは初めてです。今まで行政でなされた議論は、長良川河口堰ありき、徳山ダム

2011.11/8 朝日新聞

ありきで、これらが無くても水需要がまかなえることを、行政の設置した委員会で結論づけました。なんだか、天と地がひっくり返った気分です。

当初示された報告書案は不十分で、パブリックコメントを沢山寄せていただいたのも、この委員会の画期的な特徴の一つでした。私が分担した部分では、「開門調査の必要性が明確でない。」という手厳しいコメントであり、後押しがありました。その結果、「失われた汽水域・感潮域の生態系を回復し、豊かな河川環境をとりもどすことができる。」とする、最も大切な観点を加え、生物多様性についても「私達は、生物多様性から受ける恩恵を享受する権利を有している。いかなる利便性もこれを損なってはならないと考える。」を追加することができました。この報告書の内容に沿った前進を心から望みます。

長良川河口堰の開門提言を決定

愛知県専門委が報告書

長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査に向けた愛知県の検証プロジェクトチーム（PT）の下部組織にあたる専門委員会は7日、5年以上の開門調査を提言する報告書を正式に決定した。今後、関係自治体との調整を進めるよう県に求め

た。▼31面川流域は困惑 報告書では、開門後に海水が逆流して取水口から入り込む塩害対策として、愛知県が代替水源の確保に率先して取り組むことを求めた。また、調査費や塩害対策費について「負担割合は開門に合意した関係者で話

し合う」と明記した。開門方法は、一定の基準以上の濃度の塩水が堰上流にさかのぼった場合を除いて長期間開門し、環境などの変化を調べるとした。専門委の報告書をもとに上部組織のPTが年内にも

報告書をまとめ、大村秀章知事に提出する。7日の専門委では、報告書にある代替水源の確保策に異議を唱えた元三重大学教授の木本剛夫委員が辞意を表明、了承された。専門委員の辞任は2人目。

専門委員会の報告書のポイント

河口堰の検証
・河口堰では、計画の約16%しか水を使っておらず「水余り」
・完成後、生物の生息環境に悪影響があった

開門の効果
・ヤマトシジミの生息域が広がる
・サツキマスが増えることが期待できる

開門調査に向けて

・開門調査の期間は少なくとも5年以上
・岩屋ダム（岐阜県下呂市）の水が河口堰の代替水源になりうる
・国や関係自治体、漁業関係者などを入れた協議機関設置を提言
・農閑期（11月～3月）から、塩水がさかのぼる範囲を優先的に調査

長良川河口堰検証委員会の公開ヒアリングで報告をして

「事実誤認」？ 「水は余っていない」はトリック！ 富樫幸一（岐阜大）

長良川河口堰検証プロジェクトチーム（PT, 小島敏郎座長はじめ委員5名）の6月8日の最初のPT会議後の公開ヒアリングで、竹村公太郎氏（リバーフロント整備センター理事長・建設当時の中部地建の責任者）、田中豊穂氏（中京大・日本自然保護協会の行なった「長良川河口堰問題専門委員会」委員長）と共に、利水の問題で報告をしました。

当日は愛知県知事、名古屋市長も出席されました。報告時間は15分で、誰にでも分かる報告をするようにとだいぶプレッシャーをかけられました。その結果が「水は余っている、節水化が進んでいる、渇水には代替案がある」の3つに絞った報告です。

2011.9/1 中日新聞

6月23日の第2回PT直前の22日に愛知県と新聞社から、中部地方整備局と水資源機構によって、私が行なった8日の報告には「事実誤認がある」という資料がアップされたことを知らされました。早速見たところ、私のスライド資料に赤字で「近年の小雨化傾向によりダムなどの供給可能量は大きく低下しているの水は余っていない」等と色々書き込まれていました。指摘した3点のうち、水需要の減少は事実で、河口堰なしでも渇水に対応できる点にはノーコメントでした。急いで一週間で反論を書いて県に意見を出しました。「小雨化傾向」には蔵治委員も自身で作成した資料を提出し疑問を呈しました。8月30日の専門委員会には中部地整の笹森氏と共に再度意見陳述、意見交換の機会を得、再反論しました。

中部地整の主張は実態に反した「トリック」だと言わざるをえませんでした。データ上の問題もありますがこんなことになるのは、水余りでもダム・河口堰が必要と言い張らなければならない政治的な立場のためです。中部地整は異常渇水のときには農業用水との調整や一時的な河川維持流量の削減で既成事実として対応したし、これからもできるはずだと突っ込んだんですが、「難しいから」という弱々しい言い訳しかできませんでした。会議後の記者への対応でも「水は余っていない」としか言えなかったようです。委員会の報告書案へのパブコメでも相変わらず、木曾川総合用水（岩屋ダムと木曾川用水など）の実態や運用を無視した意見が繰り返されました。事実に基づいた、合理的な議論ができない人や組織があるのは残念です。

「水余り」で替否激論
長良川河口堰5回目の専門委員会
長良川河口堰は建設
門の是非を議論する
愛知原主権の五回分の
専門委員会が7月、
岡原行東大手庁舎で開
かれた。河口堰周辺の
水余りが余っている
かどうかについて、賛
否両派の参考人三人が
激しく意見を戦わせ、
委員も討論に加わっ
た。
管理官の笹森伸氏、
県企業庁技術監の田
口晶一氏を参考人とし
て呼び、意見を聴い
た。富樫教授は「年間降
水量が減少傾向だと
示すデータにはほらつ
きがあり、事実とは断
言できない。渇水時に
も農業用水の転用など
も対応できる」と主
張。笹森氏は「上流
部のダムは安定供給
可能だが建設時より低
減して渇水になる懸
念がある」と訴え、議
論は平行線をたどっ
た。

- ・資料は愛知県企画課のホームページを参照ください。http://www.pref.aichi.jp/0000042436.html
- ・委員会の会議の様子は、ユーストリーム「環境テレビ-中部」で見られます。
http://www.ustream.tv/channel/ 環境テレビ-

愛知県の長良川河口堰検証専門委員会を傍聴して 向井貴彦（岐阜大学地域科学部）

数回しか傍聴に行けなかったが、検証作業の一般公開は、まさに画期的だった。動画のネット配信というのも、いつでも見直せる安心感がある。専門委員会に対して「開門ありきの偏向会議」という批判も傍聴者の意見やパブコメで見かけたが、開門反対の委員たちが本質的でない発言に終始するか、あるいは一切発言せずに座っているだけだったのは、ネットで動画を見直せば誰でもわかることである。彼らも自分たちが正しいと信じるならば、公開の場ではっきりデータを示して反論すれば良かっただけである。それをしなかった（できなかった）のだから会議のやり方が不公平だったわけではない。また、検証の報告書を真摯に作成された専門委員の努力には本当に頭が下がる。当初は長良川の自然環境復元の重要性の議論が不十分に見えたが、パブコメを経た報告書の内容はかなり洗練されてきた。開門調査の実現への道は険しいかもしれないが、「長良川河口堰とは何だったのか」を公に明らかにしたことに大きな意味があるだろう。少なくとも河口堰建設反対運動を知らない若者たちのためにも必要である。長良川は、君たちが知っているよりもずっとすばらしい川だったということ、そしてそれを取り戻せる可能性があることを知ってもらうためにも。

立ち止まって考える最後の時

粕谷豊樹（長良川をまもり隊）

これまではダムや堰を作るために国や県が準備し、造るがための検討会でした。今回は今までの事を見直してはという検討会です。静かに傍聴しました。河口堰を是とする委員もいますし水資源機構の必死の抵抗もあるので議論はどうしても噛み合いません。しかし堰運用開始から満16年、今の長良川の現状を見れば議論はほとんど意味がありません。私たちは運用以前から長良川をずっと見てきました。

長良川を そっと見る（採ってしまえば見えなくなるものを大切にする） じっと見る（自然のつながりや仕組みが見えてくる） ずっと見る（記録しておくと変化が見えてくる）

長良川自身の自然の数値がすべてを雄弁に物語っています。長良川最後の漁師、大橋兄弟が9月25日の中日新聞で長良川を見続けた生き証人として静かに語っています。

戦後65年続いた土建国家を今さら批判しても後の祭りです。いまこの時点で他に選択肢はないのか立ち止まって考える最後の時です。地球のありさまを「そっと見る」「じっと見る」「ずっと見れば」答えは見えてきます。国が、行政がその理性を持つ事が出来るかどうかだけの問題です。思惑はどうであれ愛知県が投げ入れた一石には感謝をいたします。滋賀県、京都府、大阪府と自分たちで考えることが出来る政治が拡大することを期待します。

この期に及んでまだ長良川に内ヶ谷ダムを造るという古田さん。周回遅れでしかも逆方向を向いて走っていますが起債許可団体に転落した岐阜県の責任者として、今どうケジメをつけますか？ 今は分が悪く、時ではないのでほっかむりをしています国（国交省）の言いなりになり、木曾川水系導水路までやろうとしたのですよ！ 放漫な県経営に困惑する岐阜県民に神のご加護があらんことを切に祈るばかりです。

岐阜県、内ヶ谷ダム事業「継続」を国交省に報告

10月12日、岐阜県は内ヶ谷ダムにつき、「再検証結果＝事業継続」と国交省に報告した。

2010年9月28日に国交大臣は全国の83事業について「再検証」を指示・要請した。しかし再検証の実施要領の文書には、本来の目的であるはずの『「できるだけダムにたよらない治水」への政策転換を進めるとの考え』は一言も示されなかった。結果として、各地からこれまで国交省に出された報告はすべて事業者の従来の方針をなぞったものとなっている。つまり「再検証」たりえていない。

今般の岐阜県の国交省への「報告」文には次のような文がある。【仮に国からの補助がなくなった場合、県独自の予算のみで、これらのダム事業を完遂させることはおよそ現実的ではないため、県としては、国の求めに沿って、ダムの検証を進める方針とした。】

↓ 2011.09.28 岐阜新聞

古田藩知事は27日、国の補助ダムで県直し対象とされた郡上市の内ヶ谷ダムについて、現行のダム建設計画を継続する県の対処方針を決定し、正式に表明した。10月初旬に国に報告を自指す。

知事が正式表明 国に来月報告

内ヶ谷ダム計画継続

つまり国からの補助金を確保したいから、形式的に国交大臣の要請通りの「再検証」の形をとったが、最初から継続の結論ありきだった、ということのようだ・・・正直といえば正直である。

亀尾島川上流・内ヶ谷は長良川の貴重な源流域である。希少な動植物が生息する川、クマタカ2つがい繁殖活動をしている山林。もうこれ以上どこも壊してはならない。「環境対策」に何億円も注ぎ込んでも、ダムによる自然破壊は償えない。岐阜県は、水力発電を中部電力に要請するという。「クリーンなエネルギー」という美名で、自然環境破壊の本質を覆い隠そうというのであろうか？

内ヶ谷ダムは、長良川の治水（洪水対策）には役立たない、まさに「要らない」ダムである。岐阜県の極めて厳しい財政状態から考えても、内ヶ谷ダム建設計画は一刻も早く中止すべきだ。

(文責：近藤ゆり子)

↓ 2011.09.29 中日新聞

内ヶ谷ダムに〇う中部電力が申し入れ、県が賛成を表明し、一五年の本格着工を目指す方針を明らかにした。郡上市の内ヶ谷ダムに、県と中部電力は一九八七年に、同ダムでの水力発電を協議したが、発電施設などが

県側 中電に申し入れ方針

治水ダムで水力発電

昨年11月以降、県や流城自治体でつくる「検討の場」が現行計画と、ダム建設を凍結して遊水池や河道改修を組み合わせるなどの代替計画案を比較検討。環境面では代替案が優位とされたが、実現性や今後のコスト面

↓ 2011.08.31 中日新聞

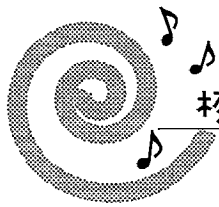
内ヶ谷ダム「検討の場」

環境対策に3.4億円

上乗せでも代替案未滿

国の見直し対象になっている長良川流域の治水ダム「内ヶ谷ダム」(郡上市)について、県や流域の関係自治体をつくる「検討の場」は二十日、環境対策費の三十四億円をきめても遊水池などの代替案より優れているとして、ダム計画の推進を合意した。今後、古田藩知事が最終判断し、十月ごろに国に報告。本年度中に国の補助が認められれば、県は二〇一五年年度に本体に着工する。(山本真樹)

計画推進で合意



校歌に歌われた長良川 ⑫ (特別編)

岐阜県立長良川鵜高等学校校歌

作詞／安野 光雅

大日岳の雪溶けて
生まれし谷の水清し
流れ下りて漁り火の
その名も高し長良川

葦の水辺はヨシキリの
林はサギの住処にて
緑の木々も咲く花も
天然の美を誇りけり

鵜の目で見える川の淵
鯉や鯰の影を知り
鮎呑む術を学びしは
我が長良川高等学校

鵜の真似をして水に入る
うかれカラスを笑いに
あわれ我がのどに紐ありき
我が長良川高等学校



今までに県内の14校の校歌を紹介してきましたが、今回は全国34校の一つに選ばれた鵜高等学校の校歌を紹介します。他には筑波村立蝦蟇(がま)高等学校や西表(いりおもて)山猫小学校、小川村立めだか小学校など有名校が選ばれています。岐阜と言えば長良川、長良川と言えば鵜飼。全国いや世界に名高い名を汚さぬよう、天然の鮎のおどる川をよみがえらせましょう。(童話屋 安野光雅「大志の歌 童話の学校 校歌・寮歌」より)

事務局より

「宝の川だった長良川は魚の棲まない本当におぞい川になってしまいました。ぜひ長良川を助けてください。」「建設に最後まで反対しましたが、中京圏の発展のためにと言われ、何度も苦しい思いをさせられ、それでも歯をくいしばってやってきました。推進した愛知県や名古屋市が今回は見直すということですが、公益とは何かと聞きたい。」愛知県の設置した「長良川河口堰開門調査」を検討する委員会で、長良川の漁師の大橋亮一さんと赤須賀漁協の秋田清音さんの証言は傍聴者に深く重く響きました。

建設開始から23年。堰閉鎖から16年。利水の実績はほとんどなく、環境破壊は誰の目にも明らかです。様々の分野の関係者から意見を聞き、膨大な資料を検討し、委員自身の手によってまとめられた報告書は、年内には愛知県知事に手渡されることとなります。

私たちはこの検証を歓迎します。そして開門調査が実施されるよう願って12月10日に「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」を開催いたします。シンポジウム成功のためにぜひご協力、ご参加をよろしくお願いいたします。

■今後の予定■

シンポジウム

「よみがえれ長良川！よみがえれ伊勢湾！」

～長良川河口堰開門と生物多様性～

●2011年12月10日(土)13:30～17:30

●名古屋市 伏見ライフプラザ・鯉城ホール

導水路はいらない愛知の会

「住民訴訟・第13回口頭弁論」

●2011年12月19日(月) 11:00～ 名古屋地裁

発行：長良川市民学習会 <http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎

連絡先：武藤 仁／090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。

賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。

郵便局口座番号：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会